

インフルエンザ予防接種副反応に関わる注意事項

D I C 健康保険組合

【重大な副反応】

まれにショック、アナフィラキシー様症状（じん麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）が現れることがあります、そのほとんどは接種後30分以内に生じます。

その他、ギランバレー症候群、けいれん、急性散在性脳髄膜炎(ADEM)、肝機能障害、黄疸、喘息発作が現れる等の報告があります。

【その他の副反応】

過敏症：まれに接種直後から数日中に、発疹、じん麻疹、かゆみ等が現れることがあります。

全身症状：発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等の症状が現れることがありますが、通常、2～3日中に消失します。

局所症状：発赤、腫れ、疼痛等の症状が現れることがありますが、通常、2～3日中に消失します。

【予防接種を受けることが適当でない人】

①接種当日、明らかな発熱をおこしている人。

明らかな発熱とは、通常 37.5℃以上をいいます。

②重篤な急性疾患にかかっている人

③インフルエンザワクチンの接種液の成分によって、アナフィラキシー様症状をおこしたことがある人

④その他、医師が接種不相当と判断した場合

上の①～③に入らなくても医師が接種不相当と判断した場合は接種できません。

【一般的注意】

①インフルエンザワクチン接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察する必要があります。特に接種後の30分以内は健康状態の変化に注意が必要です。

②予防接種当日の入浴は差し支えありません。接種後1時間を経過すれば、入浴は差し支えないと考えられますが、注射した部分を強くこすらないでください。

③過激な運動、大量の飲酒は、それ自体で体調の変化をきたす恐れがありますので、ワクチン接種後24時間は避ける必要があります。

重大な副反応（アナフィラキシー様症状）は、接種後10分～15分の間に発生しますので、接種後30分間は安静にし、様子を見ていただきますようお願いします。